

III 水道事業

令和6年度決算 財政補足説明

目次

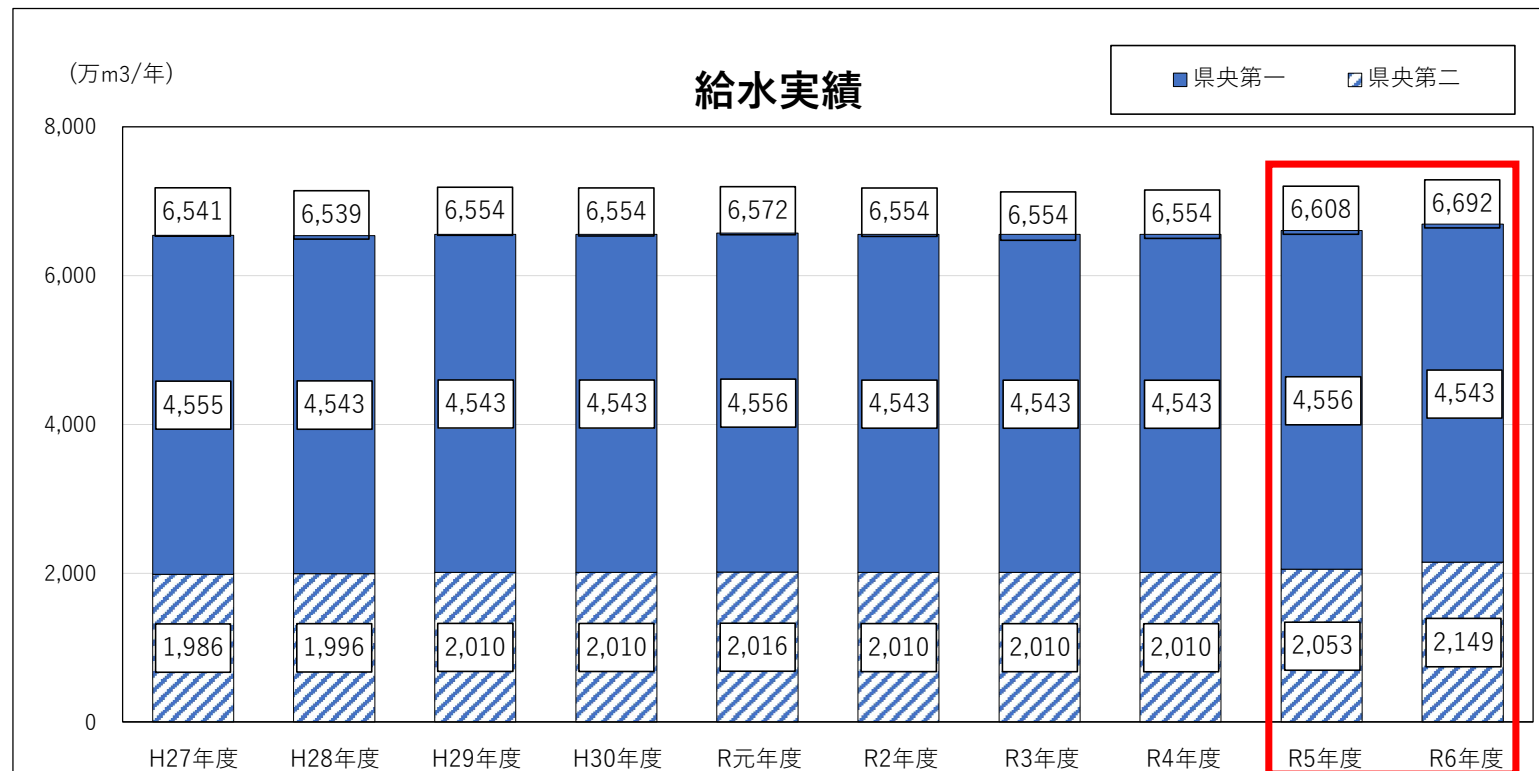
1	事業実績	26
2	収支の状況	27
3	財政の状況 (バランスシートの状況、キャッシュフローの状況)	28
4	供給単価・給水原価	30
5	経営指標分析 (料金回収率、経常収支比率、企業債等残高対経常収益比率、有形固定資産減価償却率、管路老朽化、施設利用率)	31

水道事業

1 事業実績（給水量）

ポイント

- ・ 県央第一は契約率100%であるため、給水計画どおりの給水量を確保しており、県央第二は一部受水団体の増量により、前年度よりも給水量が増加した。



水道事業

2 収支の状況

ポイント

- 安定した給水収益を確保しており黒字を計上しているものの県央第一・県央第二の修繕費の増と改良工事の増に伴う減価償却費の増を主な要因として、営業利益は前年度よりも減少した。

	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	対前年度増減	増減率
営業収益	4,410	4,420	4,469	4,469	4,046	4,093	47	1.2 %
給水収益	4,334	4,282	4,282	4,282	3,920	3,991	71	1.8 %
その他収益	76	138	187	187	126	102	△ 24	△ 19.1 %
営業費用	3,109	3,446	3,445	3,528	3,251	3,535	284	8.8 %
維持管理費	1,324	1,544	1,458	1,703	1,458	1,540	82	5.6 %
修繕費	178	205	251	196	183	313	130	71.0 %
減価償却費	1,607	1,697	1,736	1,629	1,610	1,683	73	4.5 %
営業損益	1,301	974	1,024	941	795	557	△ 237	△ 29.9 %
営業外収益	288	438	337	291	316	270	△ 46	△ 14.6 %
長期前受金戻入	283	357	294	287	263	261	△ 2	△ 0.8 %
営業外費用	222	196	306	150	156	110	△ 45	△ 29.1 %
支払利息	218	196	306	150	127	106	△ 21	△ 16.7 %
雑支出	5	0			29	5	△ 24	△ 83.3 %
経常損益	1,366	1,216	1,056	1,082	955	717	△ 238	△ 24.9 %
特別利益	2	10			15		△ 15	皆減
特別損失	0	0			6		△ 6	皆減
純損益	1,367	1,227	1,056	1,082	964	717	△ 247	△ 25.6 %
総収益	4,699	4,868	4,807	4,760	4,377	4,363	△ 14	△ 0.3 %
総費用	3,332	3,642	3,750	3,678	3,413	3,646	232	6.8 %

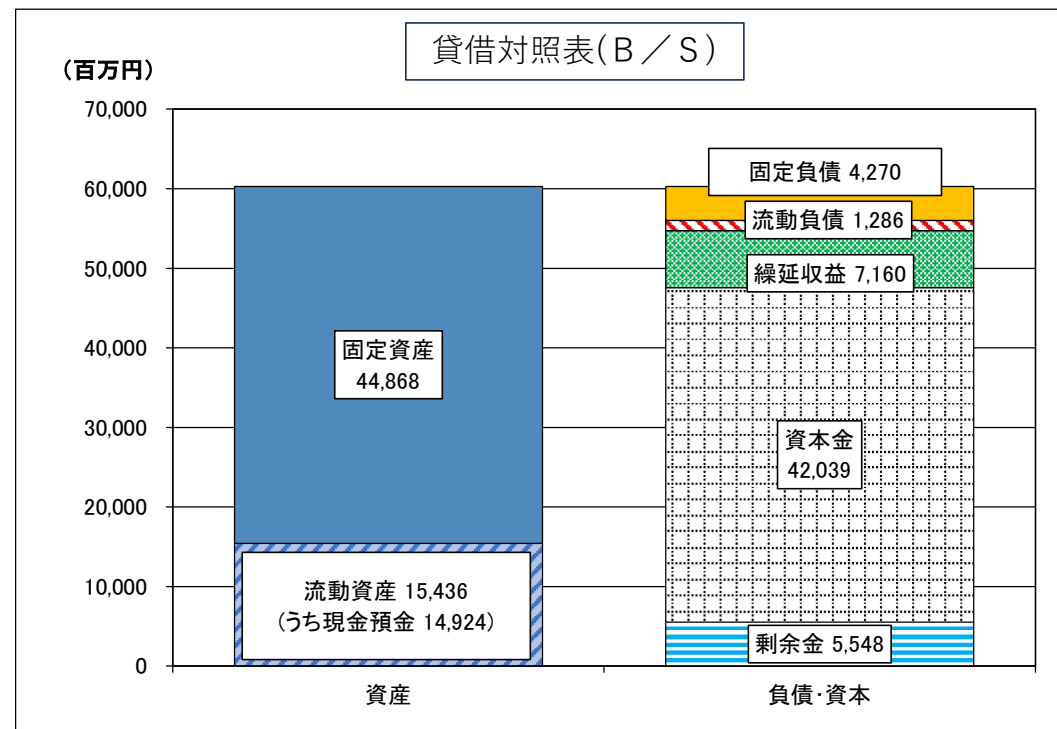
水道事業

3 バランスシートの状況

ポイント

- ・ 管路などの固定資産と、現金預金などの流動資産を合わせた資産は、60,303百万円。
- ・ 自己資本構成比率（総資本(負債資本合計)に占める自己資本の割合）は90.8%であり、経営の安定性は高い。

自己資本構成比率(%) =
(繰延収益 + 資本金 + 剰余金) ÷ 総資本



水道事業

3 キャッシュフローの状況

ポイント

- ・ 現金預金の動きを示すキャッシュフローは、業務活動による資金獲得が建設改良及び企業債償還等に伴う資金流出を上回り、現金預金は952百万円増加した。
- ・ 今後も、建設改良費の増加が見込まれることから、計画的な資金の確保に留意する必要がある。

キャッシュフローの状況

(単位：百万円)

	R5年度	R6年度	前年差
業務CF	2,322	2,297	△ 26
うち当年度純利益	964	717	△ 247
うち減価償却費	1,610	1,683	73
うち未収金の増減額 (△は増加)	120	△ 5	△ 125
うち未払金の増減額 (△は減少)	△ 9	162	171
投資CF	△ 1,433	△ 457	976
うち有形固定資産取得	△ 1,604	△ 463	1,142
財務CF	△ 923	△ 888	36
うち企業債償還	△ 923	△ 888	36
資金増減額	△ 34	952	986
資金期首残高	14,006	13,972	△ 34
資金期末残高	13,972	14,924	952



業務活動
に伴う資金獲得



建設改良等
に伴う資金流出



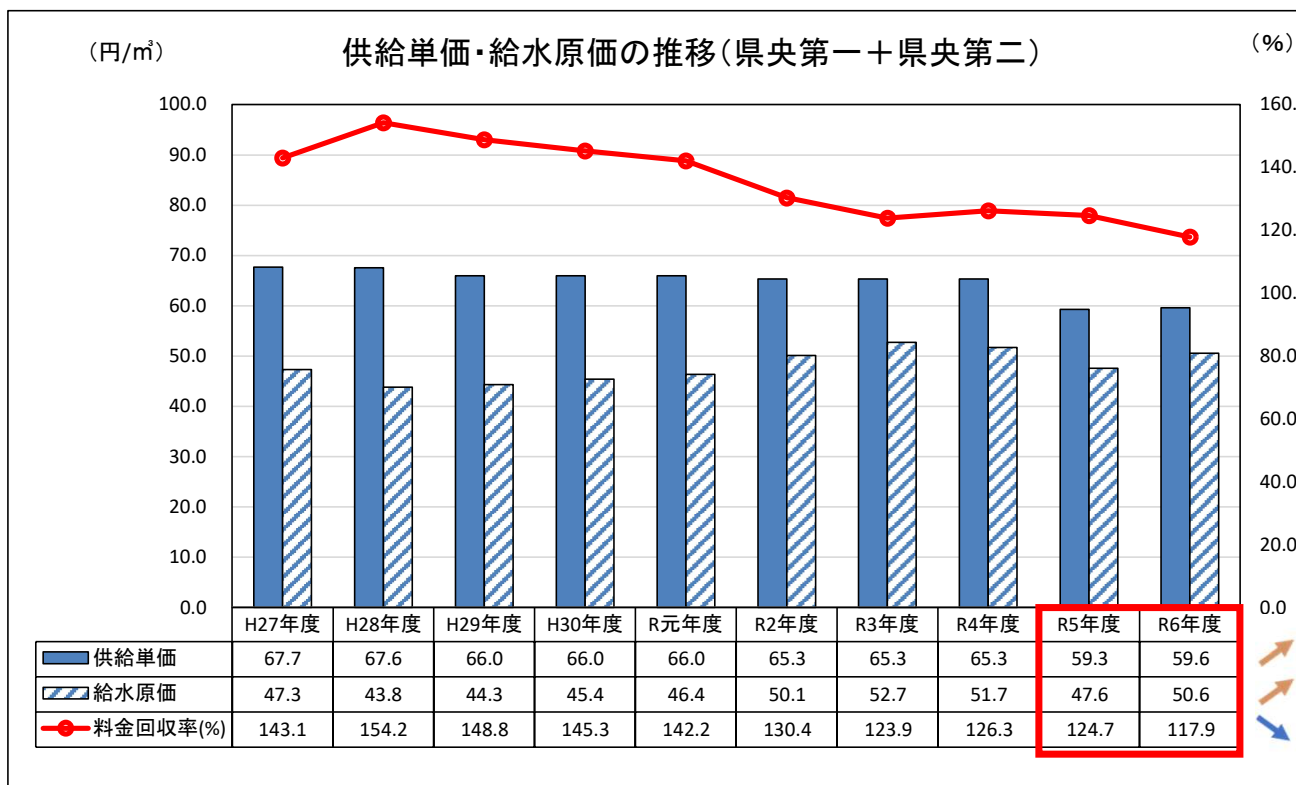
企業債償還
に伴う資金流出

水道事業

4 供給単価・給水原価

ポイント

- ・ 給水原価は、修繕費や県央第一の改良工事に係る減価償却費の増加を主な要因として、前年度よりも増加した。
- ・ 供給単価は、県央第二の一部受水団体の増量により微増した。

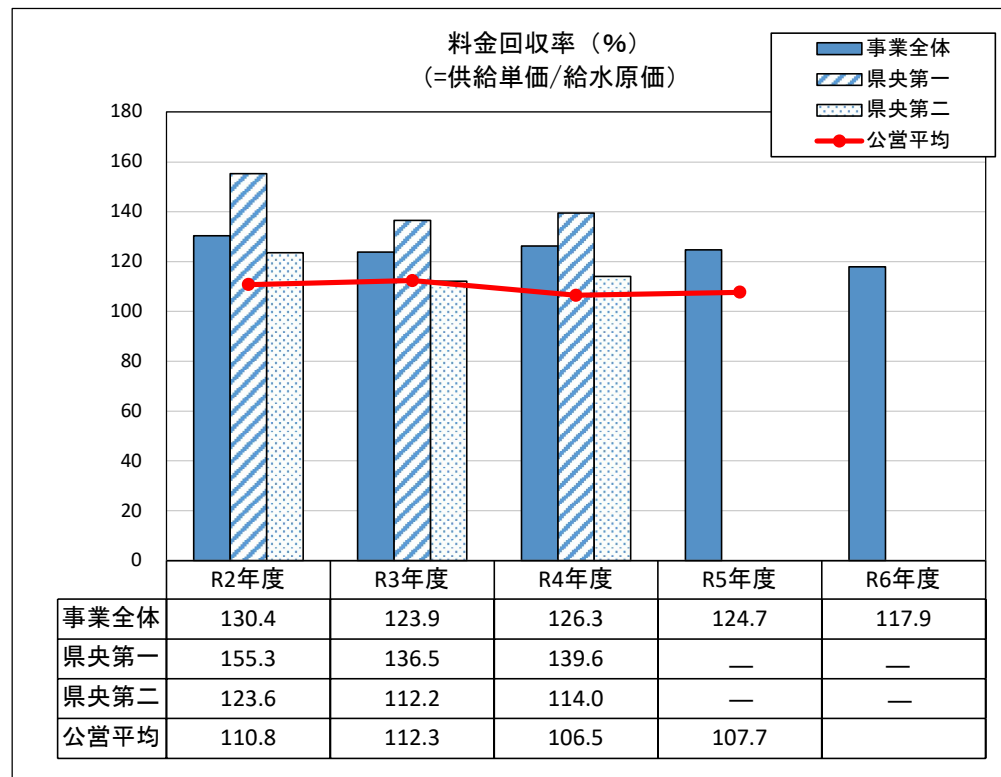


水道事業

5 料金回収率

ポイント

- ・ 料金回収率は117.9%であり公営平均の水準と比較して高い水準にあるものの、給水原価が増加したため、前年度より低下した。

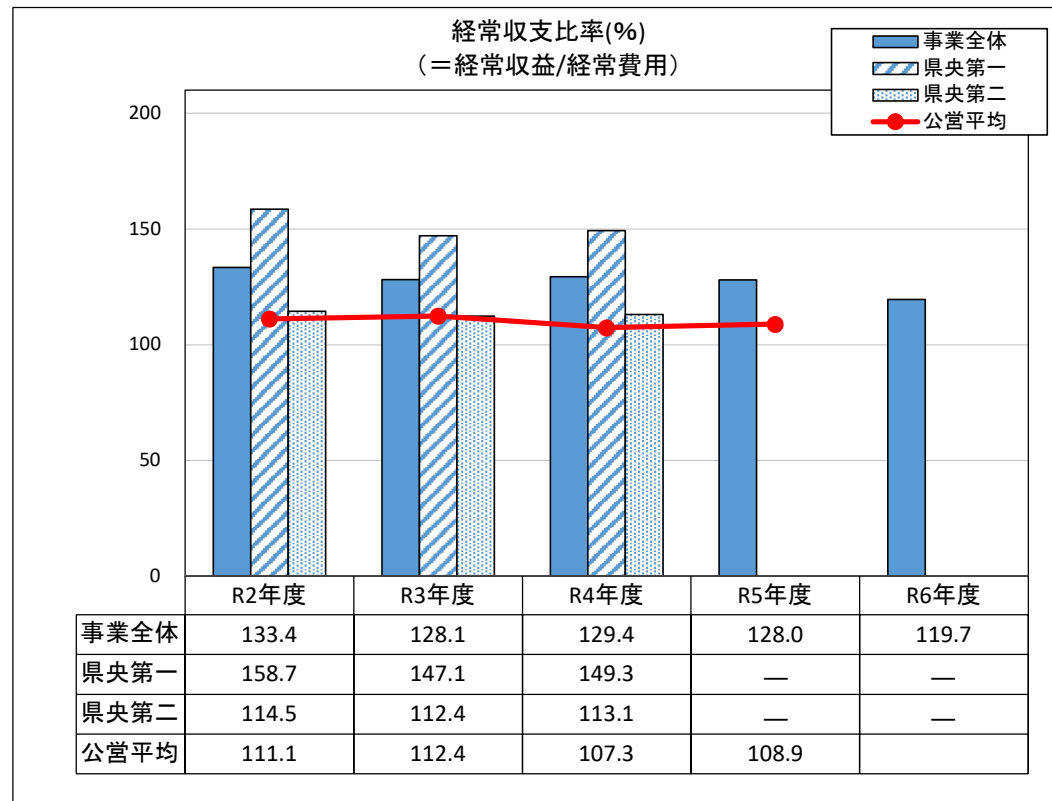


※令和5年4月1日に県央第一と県央第二を統合し、群馬県水道の1事業とした

5 経常収支比率

ポイント

- ・ 経常収支比率（経常費用に対する経常収益の割合）は、修繕費や県央第一の改良工事に係る減価償却費などにより経常費用が増加したため、前年度より低下した。

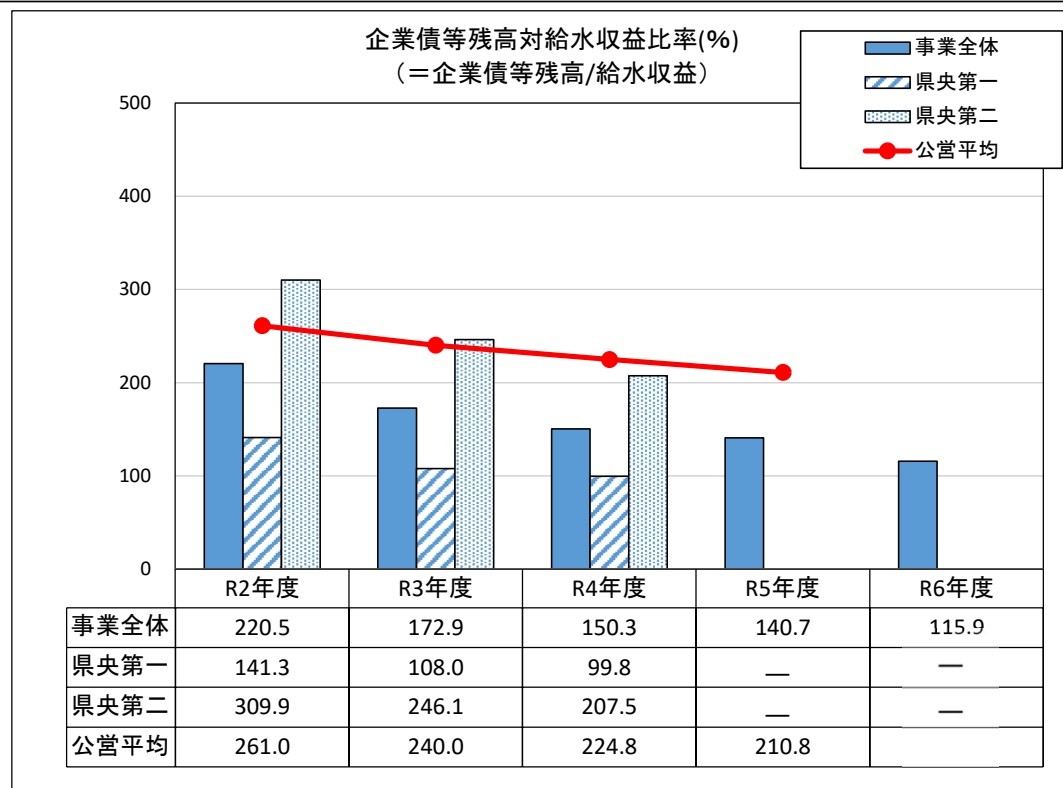


※令和5年4月1日に県央第一と県央第二を統合し、群馬県水道の1事業とした

5 企業債等残高対給水収益比率

ポイント

- ・企業債等残高対給水収益比率（給水収益に対する企業債等の借入残高）は、着実に借入金の償還が進み、改善傾向にある。

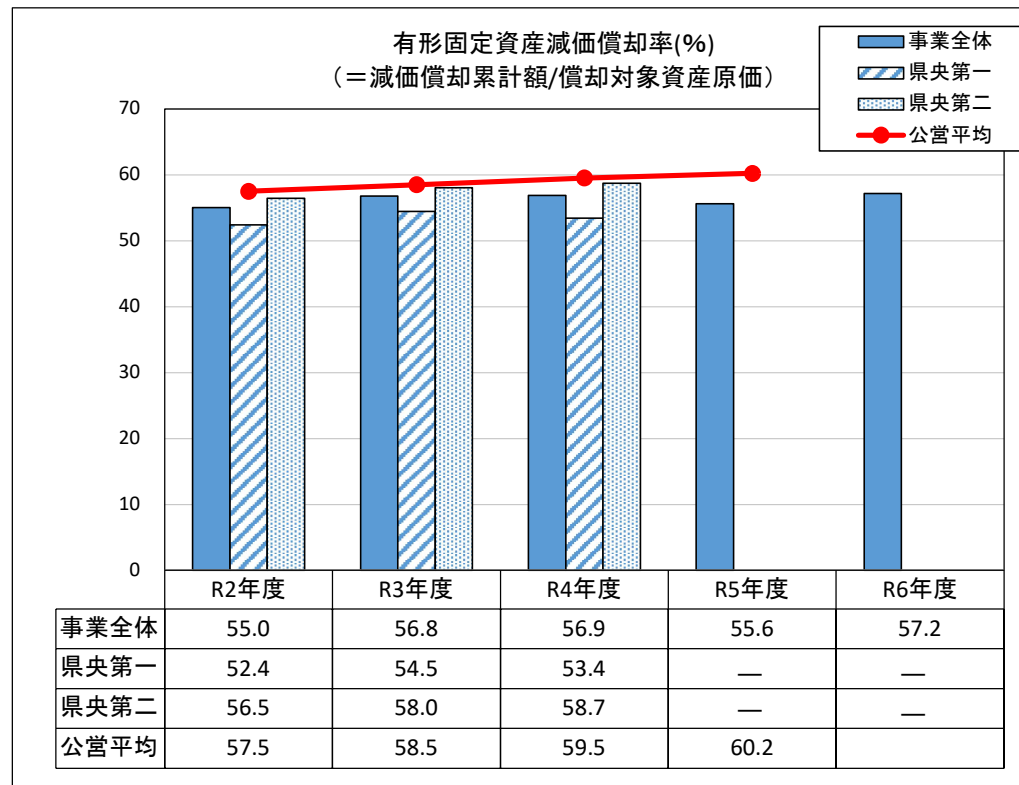


※令和5年4月1日に県央第一と県央第二を統合し、群馬県水道の1事業とした

5 有形固定資産減価償却率

ポイント

- 有形固定資産減価償却率（有形固定資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表す）は、管路等の老朽化により上昇傾向にある。



※令和5年4月1日に県央第一と県央第二を統合し、群馬県水道の1事業とした

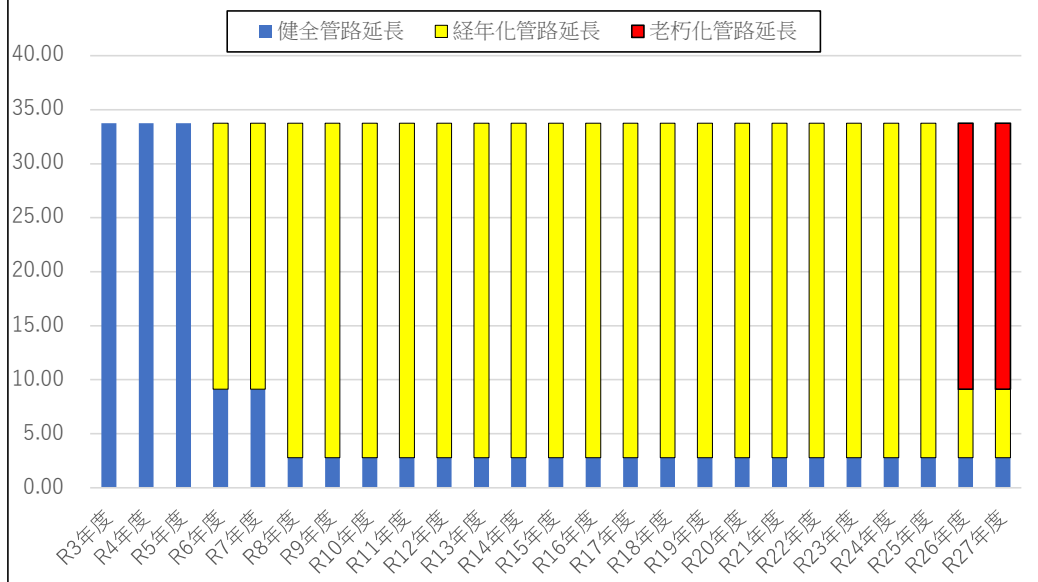
水道事業

5 管路老朽化

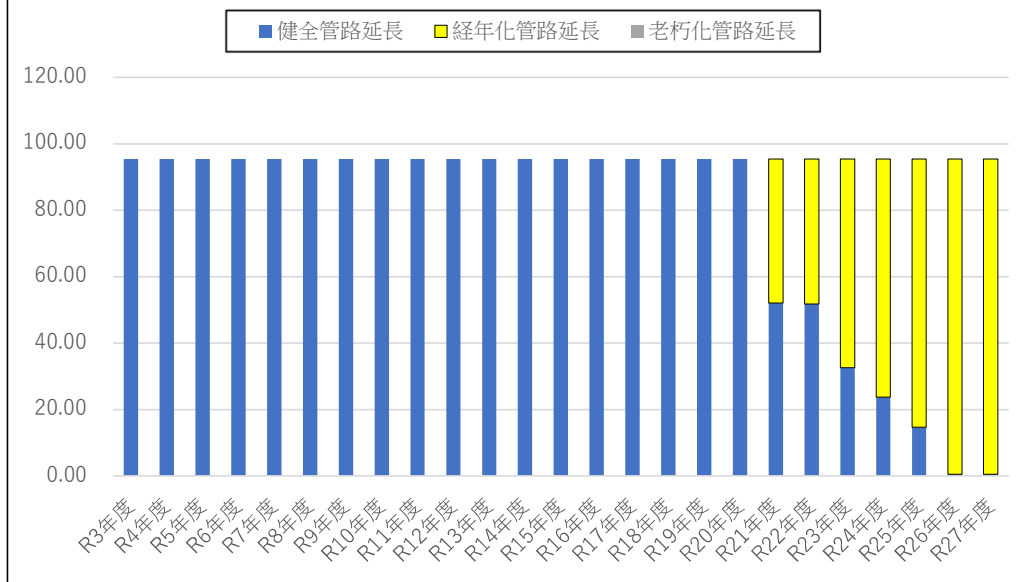
ポイント

- ・ 県央第一では、令和6年度から経過年数が法定耐用年数40年を超えた資産額が増加し、令和24年度から、老朽化資産が増加する。
- ・ 県央第二では、令和21年度から経過年数が法定耐用年数40年を超えた資産額が増加する。
- ・ 管路更新について、今後アセットマネジメントを実施し更新計画を策定する必要がある。

管路健全度（県央第一）



管路健全度（県央第二）



5 施設利用率

ポイント

- ・事業全体の施設利用率は72.4%であり、公営平均の水準を上回る水準のため、効率的に運営できていると言える。
- ・県央第二では、公営平均を下回っており、給水量増量へ向け取り組む必要がある。

